

東京都作業療法士会ニュース

編集：東京都作業療法士会広報部 発行：会長 田中勇次郎

作業療法を伝える

花はたりハビリテーション病院
大館 哲詩

事業部の大館です。私が都士会の活動に部員として参加したのは2015年からなので、ちょうど10年の節目になります。きっかけはその前年、青森の地で行われた全国研修会の懇親会、現在の事業部理事らとたまたま同じテーブルとなり当時まだ部員の少なかった事業部の活動にお誘いいただいたからという本当に偶然の出会いからでした。

事業部の活動の主目的は「作業療法の啓発」です。いろいろなイベントに参加し、講義や相談ブース、啓発資料の配布、物品紹介などを行ってきました。イベントにもよりますが、10年前と比べると来場される方々も作業療法について「名前は聞いたことがある」方が増えている印象を受けます。一方で作業療法とは何か、作業療法士は何ができる人なのかについては、具体的なイメージはお持ちでない方が依然として多いと感じます。実際に私自身も説明に苦慮したことがありました。それは作業療法の扱う範囲の幅広さ、そして対象者を作業のレンズを通してみる個性が故の奥深さがあるからだと感じています。

先日Facebookで近況を投稿するよう促すように私の11年前の投稿が表示されました。その投稿で私は小説「ひなた弁当（作：山本甲士）」を取り上げ、作業療法のエッセンスが詰まった内容を投稿していました。今回の巻頭言を書くにあたり、改めて読み返しました。作業療法士は出てきません。50歳を目

前にリストラされたサラリーマンが、野草取りや魚釣りなどを通して自然に触れ、人と交流し、そして最終的には弁当屋となり社会とつながる、そんな話です。後半に主人公は「リストラされたのは不運だったんじゃなくて幸運だったんだなと思った。」と過去のエピソードに対して意味の捉え直しをして、「人生って、いいものですよ」と語ります。解説でも、「弁当を作るという『目標』を決めた良郎が、何をやってもうまく行かない“負のスパイラル”から抜け出し、再生していく物語を紡いだ…」とあるように、作業を通して健康になることを描いた作品とも言えるのではないかと思います。世の中には「これって作業療法だな」と思う事例やフィクション作品がたくさんありますが、残念ながらそういうものに作業療法士が関わっていないことは往々にしてあります。改めて作業療法の認知度拡大のために事業部としても邁進せねばと思うばかりです。

この冊子がお手元に届く頃に私も不惑の40歳を迎えます。作業療法をどのような言葉で伝えるか。「作業は人を健康にする」、これに尽きるのではないのでしょうか。偶然にも10年前、私を都士会活動に繋げてくれた青森での全国研修会のテーマです。惑わず進みたいと思います。

CONTENTS

- ◆作業療法を伝える…①
- ◆第21回東京都作業療法学会 開催のご案内…②
- ◆ありがとう池上先生！…③
- ◆事業部活動報告…④
- ◆子ども委員会活動報告…⑤
- ◆地域活動を始めてみて感じたこと…⑤
- ◆東京新聞ヘルスケアメイツ ～新聞回想法～…⑥
- ◆認知症にやさしい本の紹介 VOL.49…⑥
- ◆保険部 Letter
- ◆刑法改正と社会復帰のための作業療法について…⑦
- ◆生活行為工夫情報事業
～日常生活で役立つ工夫集のご紹介～…⑦
- ◆地域の移動支援への取り組み
～日刊自動車新聞に掲載～…⑧
- ◆就労支援委員会 2024年度の活動報告…⑧
- ◆荒川区との災害支援協定の締結…⑨
- ◆ブロック活動報告…⑩
- ◆東京都作業療法士会 2024年会費納入のお願い…⑫
- ◆編集後記…⑫

第21回東京都作業療法学会 開催のご案内

第21回東京都作業療法学会を2025年7月13日（日）、東京都立大学荒川キャンパスにて開催いたします。学会まで残り4カ月となり、運営メンバーは着々と準備を進めています。参加者の皆様にとって有意義な時間となるよう、学会内容を充実させてまいります。今回は、特別講演の詳細も決定しましたので、ぜひご確認ください。

特別講演には、東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座主任教授・附属病院副院長の安保 雅博先生をお迎えし、以下のテーマでご講演いただきます。

テーマ：「この15年間にわたる作業療法とのかかわり - 反復性経頭蓋磁気刺激とボツリヌス療法を中心に -」

大会概要

大会テーマ：「Now or Never - 今、できること -」

日 時：2025年7月13日（日）

会 場：東京都立大学 荒川キャンパス

大 会 長：中里 武史（東京都作業療法士会 事務局長）

演題募集期間延長のお知らせ

現在、演題を募集中です。演題募集期間を延長しましたので、より多くの方々からのご応募をお待ちしております。ご自身の研究成果や実践について発表する絶好の機会です。

応募受付期間：2025年1月14日（火）12:00～2025年4月13日（日）23:00

応募方法などの詳細は大会公式ウェブサイトにてご確認ください、フォームからのご登録をお願いいたします。皆様の積極的なご参加を心よりお待ちしております。

学会担当問い合わせ先：tokyo.ot.toubu.touhoku@gmail.com

東京都作業療法学会HP



ありがとう池上先生！

広報部部长 野村 哲朗



今年度で定年を迎えられる東京都作業療法士会理事の池上洋先生は現在の広報部の礎を築き上げてこられました。

今回は、池上先生に広報部員がインタビューさせて頂き、会員の皆様へ理事としての最後のメッセージを頂きました。

—OTになったきっかけを教えてください。

大学時、ボランティアでALSや脊損、筋ジスなどの方の移動支援も行い、そこでOTが関わっている姿を見て楽しそうな印象を受けOTの養成校を決めました。

—OTとして臨床では、どんな困難あって、どのように乗り越えられましたか？

OTが面白かったから実はあまり困った事が思い浮かばないですね。学生時から、最先端の作業療法理論を知ることが出来て、わくわくしていました。

初めての臨床は急性期でした。上司が片麻痺の方の起き上がりの際、手を置くところ、リーチするところにテープで印を付けると自分で出来るようになった。同じ「編み物」という課題でも、それぞれの能力に合わせて、適切に設定すると活動を自分で始める。というようにそれぞれの患者さんの能力を自然に引き出せる作業を提供していて面白かった。

小児分野のリハビリは活動をすることを重要視します。しかし、ただ活動をしていれば良いというわけではない。単純な活動はトレーナーで十分ですが、きっと上手くない。その子が活動をどう捉えているかをアセスメントする事が重要なのに見過ごされている。OTは対象者が望む事をどのくらい言語化できているかを評価しますが、それを知らない人には真似できない。介入によって良い反応が周囲から得られた事でOTが困難だったり、辞めようと思ったことは無かったです。

—広報部の活動で達成できたと感じることはありますか。

広報部としてはホームページの運用とOTO創刊が残せた事だと思います。

ホームページは各会員に必要な情報が行き届くような個人ページ構想や会員同士がつながりがしやすいSNS機能を持たせ発展させたかった。予算の都合もありますが、これからも必要な機能だと思います。

OTOは都士会ニュースが各部・委員会・ブロック等からの定例の情報を伝える機能に対して、広報部からの発信として作りました。はじめは新年特別号としてスタートし、現在は「OTO」という名前になり毎回テーマを決めて発行しています。

—OTの核は何だと思えますか？

「生き方」・「生活」だと思えます。OTは、そのガイドラインのようなものと捉えています。より良い自分の生き方にも活かせると思っているので自分自身にもOTをしています。皆さんも自分自身をOTすると良いと思います。自分がプライベートも仕事も上手くできなかつたら説得力に欠けると思えます。

義務教育の時点でOTを知っておくと子どもの頃から自分自身をうまくマネジメントする考え方が出来るようになると思うので、今からでも小学校の科目に入れても良いと思っています。

—これからの都士会に期待したい事はどんな事ですか？

少数領域の事を危惧しています。OTの考え方の後ろ盾になっているのは子どもや精神科の潮流や理論が大きいです。それが蔑ろになるとOTの柱が崩れやすくなります。精神科の会員数を増やし、考え方を都士会に反映させていく事が大事です。各OTが関係ない分野とは思わず幅広く考える事を期待しています。特に、集団の捉え方は地域に欠かせません。養成校、都士会、協会の連携もカギとなるでしょう。

—これからはどうされるのですか。

関西方面への転居予定があります。仕事は今、白紙です。

還暦を迎えこれからの人生を楽しもうと思っています。

—ありがとうございました。これからも、ご活躍を楽しみにしています！

事業部活動報告

事業部 遠藤 環

2025年4月19日（土）・20日（日）、東京物流センターにて「キッズフェスタ2025第24回子どもの福祉用具展～アンダー18～」が開催されます。当会も長年にわたり後援しているイベントでコロナ禍前までは出展していました。啓発を再開すべく今年より改めて出展する運びとなりました。

今回は子ども委員会、福祉用具部、スポーツ支援委員会、事業部とのコラボレーション企画となっており、「OTはすべての子どもの遊ぶ権利を保障する」をコンセプトとしました。今回の展示は子ども委員会が中心となり、作業療法の啓発以外にもスイッチを使用したおもちゃや手作りおもちゃ、感覚系のおもちゃなどを用意して来場者に実際に触って遊んでもらう予定です。

また、新規賛助会員の株式会社ユニコーンも一緒に出展しMiyasuku Kids（発達支援ソフト）を展示する予定です。これは視線とスイッチでパソコン操作ができるソフトになっており幅広い使用が可能です。これもデモ機を用意し、実際に来ていただいた方たちに触って操作して遊んでもらう予定です。

この機会にぜひ、キッズフェスタに来て様々な体験をしていただきたいと思います。

こちらをご覧になった方はもちろん周りの方にも是非お声掛けください。ご来場を心よりお待ちしております。

キッズフェスタHP <http://www.kidsfesta.jp/>



子ども委員会活動報告

子ども委員会 山崎 仁智

2024年12月22日、東京都作業療法士会子ども委員会主催の研修会を開催いたしました。今回の研修会は「学校と作業療法」のタイトルで、計40名の参加者が集まり、対面形式で講義とディスカッションの二部構成で開催をして学びの場となりました。

まず、日本作業療法協会の酒井常務理事より日本作業療法士協会における学校の作業療法の考え方についてお話しいただきました。学校に入る作業療法士としての心構えや学校からの作業療法士に期待すること・期待されることを話していただきました。

東京都教育庁都立学校教育部特別支援教育課の伏見氏から、東京都における特別支援教育の最前線についてお話しいただきました。支援学校における専門家連携や小・中学校・都立高校の現状について、学ぶ環境の整備について話していただき、特に都立高校における特別支援教育の取り組みを話していただき、とても興味を引く内容でした。

子ども委員会の伊藤理事から、東京における学校作業療法の実践について話していただきました。学校作業療法の関わり方や実際に学校の場面で使えるような道具を交えて講義をしていただき現場ですぐにでも使用できそうなアイデアを教えてくださいました。

参加者からは、「とても充実した内容でした」、「とても興味深く学びました」などとアンケートでコメントがありました。今回の研修会を通じて、参加者同士の交流も深まり、子どもの幸せに向けた関りが持てればと再認識させていただいた貴重な機会となりました。

また、関東小児OT交流会が2024年2月1日に開催されました。関東圏での都士会や県士会の活動についての報告が行われ、その後、グループディスカッションと懇親会が実施されました。各士会の方々との交流が深まり、貴重な情報交換の場となりました。



地域活動を始めてみて感じたこと

地域づくり共創部（森山脳神経センター病院） 佐藤 千恵

私は病院に勤務しているのですが、外来で認知機能検査を受けられる患者さんに地域のリハビリテーション資源を紹介したいと考え、この分野に関心を持ちました。実際に地域リハビリテーションの活動に参加したことで、病院でのリハビリテーションとの違いに驚きました。今までの経験がほとんど通用しない、新人のような気持ちになりました。

地域で暮らす方々に対して介護予防の取り組みへの参加を促す難しさや、適切な資源活用に悩むのは、病院勤務の作業療法士だけでなく、地域分野で働く方々も同様であることを知りました。それぞれの立場で課題を感じながらも地域のために尽力されている姿に感銘を受け、情報共有や連携の重要性を感じました。また、多角的な視点から地域課題を捉えることや、地域住民の方々の生活を知ることの重要性を学びました。

今後も引き続き地域リハビリテーションについての学びを深め、貢献したいと思っています。また、得た知識を病院でのリハビリテーションに活かしていきたいと考えております。患者さんへ地域の資源情報を積極的に提供し、退院後の生活を見据えた支援を行い、地域と病院の連携強化に貢献できるよう努めていきたいと思っています。

東京新聞ヘルスケアメイツ ～新聞回想法～

認知症の人と家族の生活支援委員会 田中 ゆい子

認知症の人と家族の生活支援委員会は、2025年2月9日、東京新聞ヘルスケアメイツに参加してきました。60歳以上の方を対象とし、健康維持と介護予防のプログラムを実施しています。東京新聞ヘルスケアメイツは、地域住民の健康増進を支援する事業として、2022年から開催され、開催方法や内容など、東京新聞の方と共に協働しながらつくりあげてきました。当日は、7名前後で1グループになり、計8グループで東京新聞の過去の記事を用いて回想法を行いました。今回の新聞記事は、平成スタート・昭和天皇崩御、消費税、拓銀破綻、Windows95発売、野茂ノーヒット、TV欄と多岐に渡る内容でした。参加者の方は初対面同士ですが、懐かしい新聞記事を読むことで自然と昔を思い出し、あの頃は〇〇をしていた、この時〇〇だったと会話も弾み、多くのグループから笑い声が聞こえました。委員は、同時にボランティアの育成も行っており、ボランティアの方には回想法のファシリテーターを行って頂いています。実施前に、回想法の進め方や傾聴の仕方、話題の振り方などの確認をし、実施後にはフィードバックを行いました。回を重ねるごとに、ボランティアの方のファシリテーター力が上達し、私達作業療法士は、見守るだけで実施できるようになっています。今後も東京新聞の方と協働し活動の幅を広げていきたいと考えています。

認知症にやさしい本の紹介 VOL.49

川崎市立宮前図書館 館長 舟田 彰

『老いの深み』

著／黒井千次

著者の90歳直前の高齢者が感じている老いという概念を知りたく本書を手にとった。老いを真正面から捉え、そこに生きる人間の姿をありのままに描き、老いによって衰えゆく肉体、失われていく記憶、そして変化していく社会との関わりの中で、著者がどのように生きているかを綴っている。老いにより様々な不自由を抱えながら、日々の生活の中で小さな喜びを見つけ、それを大切に生きている。例えば、ユーモアを交え、散歩中に見かける花や鳥、近所の人との会話、そして何よりも、読書や執筆といった活動を通して、自己を表現している。老いに対する悲観や諦めではなく、むしろ、老いを受け入れ、それを生きる力に変えていくように描かれている。老いというものを、人生の終わりではなく、新たな始まりとして捉えることができることを教えている。また、老いという個人的な経験を通して、現代社会が抱える問題点も指摘している。例えば、高齢化社会における医療や介護の問題、そして、若者中心の社会において、高齢者がどのように生きるべきかという問題など、様々な課題を提起している。但し、問題点を単に指摘するのではなく、解決へのヒントも提示している。それは、高齢者が社会の中で役割を持ち、生きがいを見つけることの重要性、そして、社会全体が高齢者を支えることの必要性を訴えている。老いに対する新たな視点を得るとともに、これからの人生をどのように生きるべきかに対するヒントを得られる作品である。

保険部 Letter

刑法改正と社会復帰のための作業療法について

保険部 永吉 隆生

日本作業療法士協会は「人は作業を行うことで元気になれる、健康になれる」という考え方を示していますが、作業をする場は病院や職場、学校など多種多様であり、刑事施設（刑務所）もその一つです。2005年に医療観察法が施行されて以来、刑務所での司法精神医療も作業療法の領域となりました。近年は、精神鑑定を経て有罪となり、刑務所等で刑を受ける際においても作業療法士による生活訓練や創作活動・運動療法等の社会復帰プログラムが取り組まれる事例が出てきました（日本作業療法士協会HP：<https://x.gd/1vLEm>）。2025年6月1日に施行予定の新たな刑法では、懲役刑と禁固刑が拘禁刑に一本化され、刑罰の目的を「懲らしめ」から「立ち直り」に転換する方針です。これは、刑務作業の一律義務を見直し、教科指導などを充実させて再犯者を減らす狙いがあり、法務省は施行に向けて、再犯を繰り返しているかなどをベースにしていた受刑者の処遇指標を見直し、年齢あるいは障害の有無といった特性を踏まえた集団編成に改める方針です。つまり、拘禁刑の受刑者には一律に刑務作業を課さず、社会復帰に必要な職業訓練や更生指導に主眼が置かれることとなります（朝日新聞：<https://x.gd/30Gfl>）。その一助として作業療法が期待されているのです。2023年より、学会や研修会なども盛んに開催されておりますので、ご興味のある方は日本司法作業療法学会HPをご参照ください（<https://x.gd/CAVpK>）。

生活行為工夫情報事業 ～日常生活で役立つ工夫集のご紹介～

福祉用具部 金子 大輔

OT協会では、2017年度より「生活行為工夫情報モデル事業」を開始しており、2021年度からは「生活行為工夫情報事業」と位置付け、広く生活の工夫に関連する普及活動を強化しています。2023年度には、明石市と一般社団法人兵庫県土会の支援のもと、地域においてモデル事業を実施し、「道具をうまく活用することで、生活が容易になることを実感した」などの声を多くいただいたようです。また、明石市と市民が協働で、「日常生活で役立つ工夫集～明石市の皆さまへ～」を作成しています（OT協会のHPからダウンロードできます。下記のURLを参照）。皆様の日頃の臨床に役立つ資料と思いますのでご参考下さい。ただし、HP上に注意事項が記載されておりますが、ご活用には十分に注意をお願いいたします。

<https://www.jaot.or.jp/seikatukankyoku/fukushiyogutaisaku/seikastuakashi/>

また、東京都でも皆さまが工夫された事例を集めています。「ちょっとした工夫」「市販の製品を活用したもの」などがあれば是非登録をお願い致します。

工夫品の閲覧や事例登録 ⇒ <https://www.jaot.info/>
利用登録ログインID：yokaot 利用登録パスワード：otot

日常生活で役立つ工夫集

明石市の皆さまへ



地域の移動支援への取り組み ～日刊自動車新聞に掲載～

自動車運転と移動支援対策委員会 委員長 大場 秀樹

当委員会の永島氏と筆者の移動支援の取り組みが、日刊自動車新聞（4/17、1/22）に掲載された。日刊自動車新聞は、1929年に創刊された歴史ある自動車専門紙である。永島氏は町田市成瀬地区での住民主体の巡回バス「くらちゃん号」の立ち上げと運営や地域支え合い型ドライバー養成研修の講師として活動しており、地域の移動支援の仕組みづくりや互助の促進に貢献している。筆者は墨田区で実施している「車いす街歩き」について紹介した。一般社団法人WheelLogや八広はなみずき高齢者支援総合センター（地域包括支援センター）らの協力で、車いす体験・バリアフリー調査・マップ作成、街歩き後の振り返りを実施している。2022年以降5回開催し、約130名が参加した。車いす街歩きを通じ、外出機会の創出や参加者の心のバリアフリーを醸成し、地域活性化に寄与している。全国で作業療法士による移動支援への取り組みが増えており、今後も尽力していきたい。



就労支援委員会 2024年度の活動報告

就労支援委員会 齊藤 陽子

今年度、就労支援委員会では、「第20回東京都作業療法学会への参加」や、「オンライン事例検討会」、「就労支援委員会主催の研修会」等を企画・開催させて頂きました。

第20回東京都作業療法学会では、『就労支援におけるOTの役割 ～就労継続支援B型におけるOTの実践を通して～』と題して、株式会社リハス リハスワーク豊島 作業療法士 神山英梨奈氏、就労継続支援B型Work Withモノリス 作業療法士 加藤翔平氏をお招きし、各施設の紹介や、就労継続支援B型における支援内容やOTの役割などをご紹介頂きました。実際に「働くこと」を支援されている様子を聴き、改めて、OTが就労支援に関わる意味や、やりがいについて感じる機会となりました。

オンライン事例検討会は、3回開催させて頂き、のべ16名の方にご参加頂きました。今年度は、就労支援委員会メンバー以外のOTの方からも事例提供をして頂く機会に恵まれ、より実践的で幅広い検討を行うことができました。

就労支援委員会主催の研修会は、『地域共生社会って何だろう？～「働く」を通して考える～』と題して、NPO法人 いねいぶる 理事長 作業療法士 宮崎宏興氏をお招きし、地域共生社会に向けた活動について紹介して頂きました。また、東京都における障害者雇用の課題等についてディスカッションを行い、障害者の方が地域で働くことや支援者としてできること等について、参加者の皆さんと一緒に考えを深める機会となりました。

来年度も就労支援について、学び・情報共有ができる機会をつくりたいと考えています。就労支援に携わっている方、ご興味のある方は、是非、ご参加頂ければ幸いです。



荒川区との災害支援協定の締結

都士会災害対策担当 松岡 耕史

東京都作業療法士会は、東京都理学療法士協会、東京都言語聴覚士会と共に、2024年12月26日に荒川区と災害時の支援協定（災害時における高齢者等要配慮者への支援協力に関する協定）を締結しました。

荒川区公式サイト：<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a004/kouhou/houdou/20241226.html>



<協定内容>

首都直下地震等の大規模災害時に災害関連死等を防ぐことを目的として、荒川区からの要請に基づき、一次避難所（福祉的スペース含む）・二次避難所・要配慮者等の自宅などにおいて、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が要配慮者等への専門的支援を行います。

本協定締結は、自治体がこれらの3団体と同時に締結する同種の協定としては東京都内で初となり、災害時の要配慮者に対する、よりきめ細かく効果的な専門的支援が可能となります。



前列左からST西協会長、OT小林副会長
滝口荒川区長、PT森島会長

<東京都作業療法士会としての動き>

今後、大規模災害が発生した際には荒川区の避難所へOTの派遣を行うこととなります。荒川区や荒川区のある区東部・東北部ブロックを中心とした協力が必要になり、災害時に円滑に支援が進むように平時から顔の見える関係を作るように活動していきます。しかし、荒川区や区東部・東北部ブロックだけでは対応しきれないことが想定され、支援ができる他地域のOTの協力が必要となります。

そのため、東京都作業療法士会では、災害時に避難所へ派遣できる人材の確保と育成を目的に今年度から災害派遣登録バンクを立ち上げています。

災害派遣登録バンクの詳細はQRコードからご確認ください。

登録バンク詳細



<災害派遣登録バンクへの登録方法>

右記QRコードから災害派遣登録バンクへご登録ください。

バンクへの登録にあたり、災害リハ支援の経験の有無は問いません。

東京都内で災害が発生した際に作業療法士として力になりたいと希望される方はご登録をお願いします。

登録はこちらへ



ご不明点の問い合わせや都士会の災害対策に関わってみたい方は下記アドレスへご連絡ください。

tokyootsaigaitaisaku@gmail.com（都士会災害対策担当：松岡）

ブロック活動報告

区東部・東北部ブロック

柏瀬 健有

私たち区東部・東北部ブロックでは、今年の7月13日（日）に開かれる第21回東京都作業療法学会「Now or Never－今、できること－」の開催に向けて昨年からの準備を開始しています。中里大会長のもと、事務局・広報・演題担当・受付会場運営と各部門が協力して日々打ち合わせをしています。

前担当ブロックが担当させていただいたのは2018年でした。当時とは作業療法士を取り巻く社会が変わったところも多々あるかとは思いますが、より一層活躍の場が広がっていると感じております。そのような中、ご協力いただける各分野の先生方や関係する皆様のお力をお借りしながら、引き続きより良い学会の開催に向けて取り組んでいきたいと思っております。

学会につきましては、都士会ニュース、HP、SNSなどで引き続き発信してまいりますので、是非ご覧下さい。また、演題募集をしております。募集期間は2025年1月14日（火）12時から2025年4月13日（日）23時までとなっております。皆様からのご応募お待ちしております。

学会及びブロック連絡先：tokyo.ot.toubu.touhoku@gmail.com

西部・西南部ブロック

松下 泰輔

当ブロックでは、1月21日に認知症アップデート研修を開催し、18名の方にご参加いただきました。講義では認知症の現状や基礎知識を深め、グループでの症例検討では、参加者から多様な意見が出されました。症例に対する評価やアプローチも異なる視点があり、各病院・施設での取り組みについても多くの学びが得られました。研修会を通して、療法士同士の知識や技術の交換の場の重要性を改めて感じました。今回は対面開催ということもあり、終了後には参加者同士の交流が行われる場面も見られました！

当ブロックでは近隣のOTとの交流を図る研修会やイベントを企画中です。ぜひご参加ください！委員会活動に興味のある方もお待ちしておりますので、下記までご連絡ください。

連絡先：seibuseinanbu.ot@gmail.com

区西北部ブロック

清水 隆志

気温が寒かった時期から温かく過ごしやすくなりほっとしている一方、気付けば年度末となり、慌ただしい日々を過ごしています。

さて、今年度の区西北部ブロック活動は東京都作業療法学会の運営と研修1件を実施いたしました。その中で多くの方に参加して頂き、支えられた学会が印象深く感じています。来年度も皆さまが興味を持てる研修を企画し、ブロック内の発展の一助になれるように頑張りたいと思っております。

最後にブロック活動にご興味がある方を募集しています。活動を通じて他施設・領域のOTと交流もあり、良い経験になるかと思っております。ご興味のある方は区西北部ブロックまでお問い合わせください。

連絡先：tokyo.ot.seihoku.block@gmail.com

区中央部・南部・島しょブロック

森田 健将

2024年10月のMTDLP研修の処理がやっと終わりました。参加者の方々、関係各所には多大なるご迷惑をおかけいたしました。

年が明けて2025年になり、南部ブロックでも来年度に向け職場の変更などで運営委員を辞退される方が何名いらっしゃいます。ブロック運営の人数がさらに減ってしまうのはつらいところですが、今までお力添えありがとうございました。また、2月15日には中央ブロックで交流会も行われました。新たに区中央南部ブロックに加入され、つながりを持って一緒にブロック活動を盛り上げてみたいと思っていられる方は、ぜひともお力添えをいただきたいと思います。

連絡先：ku.chuou.nanbu.ot@gmail.com

北多摩ブロック

温井 恵

年度末となりました。今年度北多摩ブロックでは、多分野のOTが集い、テーマに沿って対話するツドイノバを4回、対面での懇親会でも行う事が出来、多くのOTとの交流の場となりました。またブロック主催研修会、北多摩地域である府中市福祉祭への参加も行い、作業療法士の普及活動にも力を入れて取り組んで参りました。

広報活動としてはInstagramを導入し、ツドイノバの報告、ブロック員の自己紹介も現在進行中になります。是非とも北多摩ブロック主催の活動、Instagramもご覧いただければと思います。

今後も作業療法士の認知度アップ、広報活動を通してのブロック員、参加者の更なる拡大が課題だと感じております。ブロック・協会内にてより連携を強化し、北多摩という地域に密着した地域連携・支援の充実に取り組んで参りたいと思います。

*ブロックメンバーも引き続き募集中です。ブロック活動に興味のある方は、気兼ねなくご連絡ください。ot.kitatama@gmail.com



西多摩・南多摩ブロック

今泉 幸子

今年度は7月に自助具作成体験&交流会、10月にはオンラインで自動車運転支援研修会と2回の企画を開催しました。今回の企画を通して、一堂に会して交流することの楽しさと、オンラインで遠方の方と共に学べることの価値を実感しました。2月には今年度初めて集合運営会議を行い、次年度の事業計画に想いを膨らませ、その後お疲れさま会では久々に運営メンバー同士の親交を深めました。

当ブロックの次年度テーマは「交流」。身近なテーマを挙げ、ざっくばらんなグループディスカッションを行える企画をやっていきたいと思っています。あの懇親会やキャンプが復活となるのか?!これからの西多摩・南多摩ブロックの活動にご期待ください。

ブロックメンバー大募集!ご興味ある方はご連絡下さい⇒swtamaot@gmail.com

各市区町村の所属ブロックに関しては都士会ホームページでご確認ください。

東京都作業療法士会 2024年会費納入のお願い

一般社団法人 東京都作業療法士会 事務局 中里 武史

日頃より、東京都作業療法士会の事業に対しまして、ご支援・ご協力いただき厚く御礼申し上げます。さて、2024年度分の年会費が未納の方におかれましては早急にご納入の手続きをお願い致します。

会費が未納である方には、3月号ニュースに振込用紙を同封しております。複数年未納の場合もございますので、振込用紙の金額をご確認ください。また、ニュース発行までの期間で行き違いにより既に納入済みの場合もございますので何卒ご容赦ください。

振込用紙以外にネットバンキングやクレジット決済でのご納付をご希望の方はQRコードをご参照いただき、ご対応をお願い致します。



【2025年度会費のご案内】

①会費の口座振替（自動引き落とし）の手続きをされた方

2025年4月28日（月）に振替を実施いたします。

引き落としが完了できた方には5月号ニュースに領収書を封入させていただく予定です。

②口座振替をされていない方、口座振替が完了できなかった方

2025年度分の年会費の振込用紙は次回の5月号ニュースに同封してお送りさせていただきます。

なお、2026年度の口座振替の手続きについては11月ごろにご案内させていただきます。

会費に関しましてお手数おかけしておりますが、何卒宜しくお願い致します。

編集後記



先日、千葉県立保健医療大学 藤田佳男教授の自動車運転支援のご講義を受けました。今までは深い専門性とドライブシミュレーター等の設備が必要な印象でしたが、どこでも出来る支援として情報収集・情報提供・教育があると学びました。交通安全は人々の健康に直結しているという視点を持つことが大切です。増加する免許返納者にもOTは積極的に関われると思います。今号では大場先生の地域の移動支援の取り組みが紹介されております。多くの会員様に知っていただきたい情報です。

広報部部长 野村 哲郎

※ニュースに掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

◆東京都作業療法士会 事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-1 新宿Qフラットビル501号室

TEL：03-6380-4681 FAX：03-6380-4684

◆東京都作業療法士会ホームページ <http://tokyo-ot.com/>

◆東京都作業療法士会ホームページ窓口 postmaster@tokyo-ot.com

※お詫びとお願い：現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。

ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願いいたします。